

付録 1. 用語解説

用語	よみ	解説
アンダーパス	あんだーぱす	交差点の立体化形式の一つで、地面を掘って交差する道路を潜らせる形式。
溢水	いっすい	掘り込み型の河川において、増水した水が川からあふれ出す状態のこと。
越水	えっすい	河川の水が洪水時などで堤防の上をあふれて越えていく状態のこと。
大雨洪水注意報	おおあめこうずいちゅういほう	大雨などによって、災害が起るおそれがある場合にその旨を注意して行う予報。気象、地面現象、津波、高潮、波浪、浸水、洪水の注意報がある。気象注意報には風雪、強風、大雨、大雪、雷、乾燥、濃霧、霜、なだれ、低温、着雪、着氷、融雪の注意報がある。 地方気象台などが、府県予報区を一次細分区域、または二次細分区域に分けて定められた基準をもとに発表する。ただし、地面現象注意報と浸水注意報はその注意報事項を気象注意報に含めて発表する。
大雨洪水警報	おおあめこうずいけいほう	重大な災害の起るおそれのある旨を警告して行う予報。気象、地面現象、津波、高潮、波浪、浸水、洪水の警報がある。気象警報には暴風、暴風雪、大雨、大雪の警報がある。 地方気象台などが、府県予報区を一次細分区域、または二次細分区域に分けて定められた基準をもとに発表する。ただし、地面現象警報と浸水警報はその警報事項を気象警報に含めて発表する。
外水	がいすい	堤外地側（河道内）の流水のこと。兩岸の堤防にはさまれて平常時や洪水時に流れる河川の流水のこと。
カルバート	かるばーと	道路の下を横断させて人や車を通行させたり水路として機能したりする構造物のことで、日本語では「函渠（かんきょ）」。
急傾斜地崩壊危険箇所	きゅうけいしゃちほうかいきけんかしよ	がけの斜面角度30度以上、かつ高さが5メートル以上のがけ地のうち、崩壊の恐れがあるとして法律により知事が指定した区域。
洪水ハザードマップ	こうずいはざーどまっぷ	市町村が主体となって、避難するために必要な浸水情報、避難情報などの各種情報を分かりやすく図面などに表示し、公表するもの。
洪水予報指定河川の洪水予報	こうずいよほうしていかせんのこうずいよほう	洪水予報指定河川について、気象庁と国土交通省または都道府県の機関が共同して、洪水のおそれの状態を基準地点の水位または流量を示して行う洪水の予報。予報の種類は、洪水注意報と洪水警報の2種類があり、これらを補足するために洪水情報がある。
災害時要援護者支援班	さいがいじょうえんごしゃしえんはん	防災関係部局や福祉関係部局での横断的なプロジェクト・チームのことで、平時には援護者情報の共有化、避難支援プランの策定、要援護者参加型の防災訓練の計画・実施、広報等を行い、災害時には避難準備（要援護者避難）情報の伝達業務、避難誘導、安否確認・避難状況の把握等を行う。
自主避難	じしゅひなん	災害が発生、またはその恐れが生じた際に、住民自らの判断により行う避難のこと。
冗長性(リダンダンシー)	じょうちょうせい(りだんだんしー)	冗長とはむだが多くて長いことを示し、防災では、自然災害などによる障害発生時に、一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながらないように、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されていることを示す。
浸水想定区域	しんすいそうていくいき	当該河川の洪水防御に関する計画の基本となる降雨により当該河川がはん濫した場合に浸水が想定される区域。
GIS(地理情報システム)	ジー・アイ・エス(ちりじょうほうしすてむ)	位置や空間に関する情報をもったデジタル化された地図(地形)データを基盤に、統計データや位置の持つ属性情報などの位置に関連したデータを総合的に管理・加工し、視覚的に表示できる高度な分析や迅速な判断を可能にする技術。
水防警報	すいぼうけいほう	国土交通省または都道府県から水防管理団体の水防活動に対して、待機、準備、出動などの指針を与えることを目的して発令されるもので関係機関に通知される。水防警報は、河川ごとにあらかじめ決めておいた水位観測所（水防警報対象水位観測所）の水位に対して、指定水位、警戒水位、危険水位など水防活動の目安となる水位を決めておき、川の水かさ、その水位あるいは水位近くまで上昇すると発令される。

用語	よみ	解説
代理権の設定	だいにけんのせつてい	首長や各種意思決定に係る職員が不在のため、意思決定を行う代理権者を事前に設定しておくことにより、自治体内の意思決定を滞りなく実施するための設定。
ダム情報	だむじょうほう	有効貯水量、現在貯水量、貯水率等のダムに関する諸情報のこと。
ダム放流警報	だむほうりゅうけいほう	ダムの放流に際し、著しい水位状況の変化が予想される場合に、事前にダム下流の河川流域に対して警告を行うもの。
堤外地	ていがいち	堤外地とは川表とも称し、堤防からみて流水の存する側の土地。兩岸の堤防にはさまれて平常時や洪水時に河川の流水が流れる区域。
堤内地	ていないち	堤内地とは川裏とも称し、堤防からみて人家の存する側の土地。堤防により洪水氾濫から守られている土地。古くは宅地等の生活空間を囲う形で堤防（輪中堤）が築かれていたため、生活空間である部分を堤内地という。
土石流危険区域	どせきりゅうきけんくいき	土石流が氾濫・堆積・停止すると予想される区域。
内水	ないすい	堤内地に降った雨水による流水のこと。
破堤	はてい	洪水などの作用によって堤防が破壊されること。
避難準備情報	ひなんじゅんびじょうほう	避難に時間がかかる「災害時要援護者」（高齢者や障害者ら）のために、通常の避難勧告（避難行動を開始すべき段階）や避難指示（生命への危機が迫っている段階）に先だって発令し、いち早く安全な場所に逃げてもらうための情報。
輻輳	ふくそう	物事がひとところに集中することであり、災害時の場合には、膨大な数の電話が特定の交換機に集中することに相当する。災害時には通信の輻輳のため通信能力は著しく低下する状態となりやすい。